

JISA パブリックポリシー部会 ミャンマーIT懇談会 開催報告

ミャンマーの著名な国立情報工科大学である University of Computer Studies, Yangon/Mandalay (以下、それぞれ UCSY/UCSM) の教授 5 名が日本の先端技術、電子政府、社会適用、サービス事業、ソフトウェアエンジニアリングなどについての状況を視察するため来日したのに合わせ、JISA パブリックポリシー部会と京都大学大学院 市場・組織情報論研究室 (以下、京都大学大学院) は、2013 年 7 月 5 日 (金) に京都大学にてミャンマーIT 懇談会を開催した。JISA 会員企業 9 社および部会関係者等を合わせ、計 22 名が参加した。

はじめに、ミャンマー出身の京大留学生ピョーインウィンさん (京都大学大学院 修士課程 1 年) から、「ミャンマーの IT 事情と課題」と題して、ミャンマーにおける ICT 環境の変遷や一般消費者の ICT 利用実態と利用意向、ICT 利活用のための障壁とその原因などが紹介された。参加者より、ミャンマー国内の物流や銀行、EC サイトの実情、ICT 産業の構造などについて質問があり、ミャンマー語文字コードの問題や電子決済移行への課題などについて、ミャンマー側参加者と日本側参加者とで活発な議論が行われた。

続いて、横澤誠パブリックポリシー部会長 (京都大学大学院 客員教授) から、「Servicization of Industry and Scientific International Collaboration (和訳：産業のサービス化と国際連携の科学)」と題して、我が国の情報通信政策の変遷や、近年注目の集まるサービス化 (servicization) の各国事例、国内ソフトウェア産業の国際連携における課題と今後の在り方への考察が発表された。

その後の議論においては、ミャンマーにおけるオフショア/アウトソーシングビジネスや、ミャンマー ICT 産業の今後の方向性に話題が及び、特にミャンマー側参加者からは、日本の情報サービス企業からみてミャンマーの ICT 産業界に期待する要件や他の新興国と比較した際の優位性などについて、様々な質問があり、意見交換が行われた。

最後に、十河卓司特定准教授 (京都大学学際融合教育研究推進センター) より、「Introduction to Kyoto University Design School (和訳：京都大学デザインスクールのねらい)」と題して、今春に京都大学に新設された「デザイン大学院連携プログラム」(通称、デザインスクール) の概要が説明され、サービスデザイン/モデリングの諸研究が紹介された。

その後の質疑応答では、ミャンマーの高等教育プログラム、特に UCSY/UCSM のカリキュラムや産業界との連携の状況などについても話題となった。

以上